

# 進化経済学会

ニューズレター No. 35

Dec. 2013

進化経済学会事務局 evoeco-post@bunken.co.jp  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター  
TEL : 03-5389-6493  
FAX : 03-3368-2822



++++  
オータムコンファレンス開催報告  
第VI期第3回理事会記録  
(会計報告資料)  
第18回金沢大会のご案内  
若手セミナーのご案内  
会員の異動  
++++

## オータムコンファレンス開催報告

第18回大会実行委員長：瀬尾崇（金沢大学）

第18回金沢大会のオータムコンファレンスは、2013年8月31日（土）、石川県政記念しいのき迎賓館で開催された。台風接近が心配されるなか、52名（会員32名、非会員20名）の参加者があった。

今回のオータムコンファレンスは、「進化経済学の原点に還る」という第18回金沢大会の統一テーマのもと、進化経済学の知的源泉としてしばしば言及される T. ヴェブレン、J.A. シュンペーター、F.A. ハイエクをとりあげ、これまで本学会にそれほど大きなかわりのなかった3名の専門家をお招きして、ご講演していただいた。本学会からやや距離をおいたそれぞれの立場からの知見に触れることで、進化経済学の知的土台を再確認し、今後の学問的・組織的な方向性を探ることが、今回のオータムコンファレンスの目的であった。コンファレンス後の懇親会には36名が出席され、金沢21世紀美術館でおこなわれた。

### ＜オータムコンファレンスの講演内容＞

1. 高哲男（九州産業大学教授、九州大学名誉教授）  
「ヴェブレンの進化的経済学：C. ダーウィンの進化論との比較で」
2. 岩井克人（国際基督教大学客員教授、東京大学名誉教授）  
「シュンペーターの資本主義論はなぜ進化論的であるのか？」
3. 仲正昌樹（金沢大学教授）  
「進化と慣習と自由：ハイエクの『自生的秩序』論をめぐって」

1. 高哲男会員の講演は、初期ヴェブレンの思想に立ち返ってその特徴を確認し、進化論的科学としての制度経済学の理解を深めることを意図したものであった。初期ヴェブレンは、カントとスペンサーから強く影響を受け、哲学的な視点から大衆社会における人間行動の特徴（(1) 個体や戸別事象がもつ固有の目的(teleology)と有機的全体の目的との関連性、(2) 産業の発展が意味するもの、(3) 人間行動の動機としての競争心の役割、(4) 産業発展と生存・安楽水準との関連性）に関心をもっていた。ダーウィンの関連において、ヴェブレンは、「ダーウィン以前」の方法論を、絶対真理という見地から傾向・法則を理解し定式化していると特徴づけ、「ダーウィン以後」のそれを、個別事象の無限の因果関係のプロセスそれ自体を理解することにあると特徴づけた。したがって

ヴェブレンにとって人間行動を対象とする経済学がなすべきことは、人間生活における「用不用の遺傳的な効果」や「変化した生活条件がもつ直截的で長期的な影響」を発生論的に理解し、再構成＝理論化することであった。スミスとヴェブレンとの対比においては、スミスが社会の維持・発展の道徳的基礎として「共感」を強調したのに対して、ヴェブレンは社会制度進化の加速要因として「競争心」を強調した。以上のようなヴェブレンに関する学史的な検討を踏まえて導き出されたヴェブレンの進化的思考の特徴は、次の2点である。(1) 「共感」や「社会的本能」が人間の思考習慣の形成において担う役割よりも、むしろ「競争心」の役割が強調されたこと、(2) 科学技術・産業技術の進歩に対して適応能力がなかったり、適応する努力を払う必要がなかったりする人々は「退行＝先祖返り」する傾向があることを指摘したこと。これら2つの特徴から、ヴェブレンは、古代から現代に至る過程で確立されたさまざまな思考習慣＝制度が、現代の社会のなかに累積的・多層的に存在し、現実において機能しているという独自の分析を、制度進化の理論として確立しようとしたのである。講演では、『有閑階級の理論』の副題が「制度進化の経済学的研究」（初版）と「制度の経済学的研究」（初版2刷）とで、控え目に変更されたことに触れられ、ヴェブレン自身、『有閑階級の理論』がダーウィンの制度の進化論になり切れていないことを自覚していたのではないかとの見解も示された。



2. 岩井克人氏の講演は、大会実行委員会から希望させていただいた氏独自のシュンペーター経済動学を中心に据えて、シュンペーターの資本主義論がなぜ進化論的であるのかを論じたものであった。冒頭では、シュンペーターにとっての2人のヒーローであるワルラスおよびマルクスとの関連が紹介された。よく知られているように、ワルラスの一般均衡理論では、長期において本来的な利潤率はゼロになる。したがって、ワルラスの資本主義の純粋理論は、資本主義の要である利潤が消滅してしまうことになる。

また、マルクスの搾取利潤論からは、生産を拡大する結果、不可避免的に賃金率が上昇し、こちらもまた利潤はゼロまで引き下げられる。したがって、ワルラスからもマルクスからも、長期利潤論を内包した純粋資本主義論は導き出せないことになる。そこで、長期において正の利潤が可能であることを示すためにシュンペーターが用意した解答は、創造的破壊のプロセスを通じた新結合であった。このシュンペーターのヴィジョンから氏のシュンペーター経済動学が展開された。まず、企業間の短期的な生産性格差の分布から累積資本シェアの分布を導出し、それを短期の（シェア）供給曲線とする。この生産性分布は資本蓄積によるダーウィンのような進化を通じて累積シェア分布を変化させる。その変化のプロセスは集団生物学者 R. A. フィッシャーの手法を用いて定式化され、ロジスティック曲線的な成長経路を描く。ここでダーウィンの「淘汰の原理」（資本の集中化）やラマルクの「模倣・学習の効果」（資本の拡散化）が作用すると、長期的には利潤はやはり消滅することになる。そこで、次に、均衡化過程を打ち破るような「革新」活動（すなわち、企業家による新たな不均衡の導入）が追加される。革新がポワソン過程にしたがって生起する場合、平均累積資本シェアの長期的収束をみると、再びロジスティック曲線が登場する。このことから、生産性の長期平均累積資本分布はロジスティック型の右上がりの曲線となり、そこから“右上がりの長期供給曲線”を導出することができる。氏のシュンペーター経済動学モデルは、非常にシンプルなモデルであり、内生的な技術変化や製品差別化や信用などが捨象されていることを差し引いても、「淘汰+模倣+革新」の相互作用の集計結果として導出された経済発展モデルとして、新古典派的成長理論の批判となりえるものである。講演の最後では、シュンペーターの資本主義崩壊論にも言及され、社会主義への代替という予言は外れたが、現代のポスト産業資本主義（資本主義の純粋化）において、シュンペーターの資本主義の純粋理論は基礎理論になる可能性があり、それは本質的に「進化論的」なものであることが指摘された。



3. 仲正昌樹氏の講演は、政治思想の立場から、経済学者としてのハイエクが後に研究関心領域を拡げ、法やルールや自由を論じるようになった頃から表面化してくる進化論的な視点に焦点をあてたものであった。まず、市場における「知識」の問題に言及され、いわゆる全知の「経済人」を仮定する経済学に対してハイエクが疑問をもつようになった背景が指摘された。続いて、社会の「設計」をめぐる問題に言及された。ハイエクは論文「真の個人主義と偽りの個人主義」でデカルト的合理主義（環境を思いどおりに設計していくことが可能であるという思想）を批判し、そうではなく、個人は制度によって行動がかなり限定されているため、「経済人」のように全知ではなくても、結果的に合理的な行動をとることができるというハイエクの思想が示された。ハイエクは、個人を制度によって支えられた「弱い」存在と捉えていた。さらに、ハイエクの社会進化とルール・慣習の関係について言及され、社会の進化を「慣習・ルールの進化」と捉えたハイエクの思想が指摘された。ハイエクは、個別的ルールの功利主義ではなく、「一般的ルール」の発展として自然法を捉えており、ルールの進化の中で合理性が出現すると考えていたという意味で、ハイエクの合理主義観とは、「設計論的合理主義」ではなく「進化論的合理主義」であるといえる。ハイエクは、進化を通じてルールは抽象化され、一般化されて「消極的なルール」が残るが、これを守るための「法」体系が整備された社会こそ、進化した社会であると捉えていた。最後に、ハイエクは、人間が人為的に制定した法を超えるルールの存在を指摘するために、「法とルールの進化」に言及するようになったことが指摘された。ハイエクは、「私人」間の自生的なルールによって成立している関係と「組織」を維持するための法を明確に区別しており、それに基づいて、「カタラクシーとしての市場」と「政府」との関係捉えていたことが、分かりやすく図式的に示された。



以上のように、いずれの講演も大変興味深く、われわれの知的関心を刺激されるものであったことは

言うまでもない。また、司会を引き受けてくださった西部忠（北海道大学）会員が、講演後の討論をうまくとり仕切ってください、やや予定時間を超えて活発な議論がおこなわれた。今回のオータムコンファレンスでは、参加者に「質問票」を配布したことが功を奏し、討論をまとめなければならないサマリー執筆者にとって大きな手助けとなった。参加者からご提出いただいた「質問票」を有効活用するため、できるだけ忠実に論点を列挙させていただくことにする。



#### <高報告に対する質問・意見>

- ・ダーウィンの自然選択論のコアは、「個体群 population」としての種があり、その環境との関連で分岐していくことであると考えますが、ヴェブレンにはそのような見方はあるのか。（八木紀一郎（摂南大学）会員）
- ・“Natural Selection”を「自然淘汰・選択」と表記した理由は何か。
- ・ヴェブレンはマーシャルの『原理』の他に『産業と交易』からも影響を受けているか。（以上、岩下伸朗（福岡女学院大学）会員）

#### <岩井報告に対する質問・意見>

- ・岩井理論では経済規模は無視されている。将来（現在）の経済問題を考えると、人口減少および経済規模縮小が現われると考えられるが、そのような縮小経済のもとでも資本主義は存続可能と考えるか。（八木紀一郎（摂南大学）会員）
- ・長期において利潤が消滅しないシュンペーター的

動学理論を考えることは、現実の経済の理解に役立つのだろうか。例えばワルラスに依拠する限り、供給者と需要者が集まって共通の価格ボードを見つめるような市場観から抜けられない。しかし、「生産」がかかわるような市場では、直接売り手と買い手が契約を交わす対面型の取引ではないか。対面し不可逆的な取引だからこそ人々は制度を利用し、取引相手やライバルの評価に関する情報をかき集めて買い手を探し、場合によって需要をつくりだす。これはインターネットが登場し、大量の情報が入手可能であり、かつ地理的制約が小さくなった現在でも同じことである。報告にあった純粋理論は、何をあらわすことを目的とした理論なのか。（江頭進（小樽商科大学）会員）

・「右上がりの供給曲線」の説明は非常に興味深い。確認として、生産性の異なる個々の企業は水平な供給曲線と右下がりの需要曲線に直面し、それぞれの企業の生産量は需要によって上限が決められる。しかし、高コストの企業の需要は収縮していくため、産業の供給曲線の形状も変化していく。個々の企業が直面する状況は、このような理解でよいか。

・「農村の過剰人口…」(スライド31)という「ポスト産業資本」の説明は、まさに今の中国に当てはまるようにも思われるが、中国も「ポスト産業資本」段階に入ったときに世界経済はどうなっていくと考えられるか。（以上、藤本隆宏（東京大学）会員）

・企業間の短期的な生産性分布があるというのは一物一価ではないということか。そうであるなら、均衡市場モデルではない市場モデルが必要なのではないか。

・グラフの45度軸回転は、本来不要ではないか。経済学がパラメータの価格をたて軸にしている習慣の方がおかしいのではないか。（以上、桑垣豊（京都産業大学）会員）

・「資本主義」の「純粋理論」の構成要素として銀行の信用創造を挙げているが、モデルではこれが扱われていない。もし、信用創造をモデルに導入するならば、それはどのような役割を果たすか。それは利潤率に応じた資本投資＝蓄積を単に増幅するだけなのか、あるいは信用創造が経済動態に独自の自律的役割をもつのか。

・淘汰・模倣・革新をともなった「長期供給曲線」において、限界生産者が所与の需要曲線のもとで価格を決定することになっている。不完全競争の世界において、産業レベルの価格決定として、支配的な企業がマークアップ原理によって戦略的に価格設定をおこなうことは想定できないか。「限界原理」を採用することによどの程度のメリットがあるのか。（以上、植村博恭（横浜国立大学）会員）

・市場参加者が全員同じ予想をして利潤が生まれな

いとすれば、設定される問題は、なぜ全員が同じ予想をしないのか、ということになるのか。(谷口和久(近畿大学) 会員)

< 仲正報告に対して >

・ミーゼスの「カタラクティクス」とハイエクの「カタラクシー」の違いは何か。(谷口和久(近畿大学) 会員)

< 全体に対する質問・意見 >

・供給側の進化はしばしば言及されるが、需要側の進化はどのように考えられるか。例えば、日本では石油ショック、バブル経済後に大きな変化があった。また、生産性の伸びは定常的だが、需要は先進国では頭打ちとなり、設備投資の役割が下がっている。資本の価値も小さくなっているのではないか。(桑垣豊(京都産業大学) 会員)

・経済的把握における「均衡」と経済的「進化」とのそれぞれの論者の関連のさせ方を示してほしい。特に、他の論者との端的な相違や特徴はどうか。それぞれにおける静学と動学の関連のさせ方の違いともいえるのか。(岩下伸朗(福岡女学院大学) 会員)

さらに講演全体に関して、特に進化経済学の基本的アイデアおよび方法論に関する論点として、ヴェブレン、シュンペーター、ハイエクの「均衡理論(市場理論)に対する見解の相違」や「ミクロとマクロを関連づける方法」に関する議論もなされた。



上述の通り、オータムコンファレンスは、すべての参加者のご協力のおかげをもって、盛況のうちに何とか無事終えることができた。ただ、今年度の第18回金沢大会の実行委員会は、過去の大会のなかで最も若いメンバーで構成されており、特に、同じ世代の若手会員の参加および積極的な議論を期待していたが、交通の便の悪い地方都市での開催ということもあって、大学院生を含めた若手会員の参加がほとんどなかったことは心残りである。きたる2014年3月15日・16日に開催予定の年次大会は、すで

に企画セッション・口頭報告が確定しており、約50報告の応募をお寄せいただいた。また、従来オータムコンファレンスに合わせて開催してきたサマースクールを、「若手セミナー」と呼称を代えて年次大会と同日の開催を予定している。年次大会では、さらに多く会員の参加、そして特に若手会員の参加を期待したい。大会実行委員会としては、その期待を実現するための準備を引き続き進めていきたいと思っている。

文章中に挿入した写真につきましては、大会実行委員会をサポートしてくださった北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)の楊洋さんにご提供いただきました。また、開催校所属会員は2名しかおらず、JAISTの大学院生の方々に運営のサポートをお願いいたしました。この場を借りまして感謝申し上げます。

## 第VI期第3回理事会記録

理事（事務局）：吉田雅明（専修大学）

8月31日 11:00-12:15 石川県政記念しいのき迎賓館

### 1. 藤本隆宏会長挨拶

### 2. 会勢報告。

個人会員 393 名・個人終身正会員 1 名・院生会員 63 名・賛助会員 1 団体・招待会員 2 名の合計 460 名に対して、今回承認された新入会員（個人正会員として番匠谷光晴・竹岡良輔の 2 名、院生会員として阿部晃太・伊藤史彦・板垣武尊の 3 名）を加えて 465 名が 8 月 31 日時点の会勢であることが吉田雅明事務局担当理事より報告された。

3. 開催校から瀬尾崇理事より、オータムコンファレンスは参加予約者 52 名（一般会員 31 名、学生会員 1 名、非会員 20 名）、懇親会予約者 36 名で開催されていること、今年度のサマースクールは本大会に合わせて行うこと、報告希望は 9 月末締切であるが、現在一般報告 1 件、セッション企画にかんする問い合わせが 2 件あること、応募された報告希望については締切後理事会 ML で審査されることが報告された。

### 4. 谷口和久財務担当理事より会計報告。

#### A 決算報告について（別掲【資料 1】）

- (1) 会費は予算案 435 万円に対し、409 万円の収入である。
- (2) 大会収入はオータムコンファレンス 17 万円、本大会 77 万円、合計 94 万円となり、中央大学の非常な努力によってできた。大会の余剰金は 60 万円となった。
- (3) 寄付金は部会からである。
- (4) 経常収支は 190 万円の黒字となり、繰越金は 320 万となった。当面の会費値上げは避けられた。

#### B 予算案について（別掲【資料 2】）

- (5) 2013 年 3 月の大会にて報告した予算案を、3 月 31 日の決算に基づいて改訂した。
- (6) 金沢大会は予算的に厳しいので、昨年度ほどの黒字は出ない予定である。
- (7) 国際文献への事務委託費の削減、部会費補助の削減などにより、繰越金は前年度なみの予定である。

#### C 中間報告について（別掲【資料 3】）

- (8) 会費収入は昨年度とほぼ同じ 240 万円の入金があ

った。ただし、今年は 7 月 31 日現在であり、昨年は 8 月 31 日現在で 244 万円であった。

(9) 寄付金は部会費からと八木会員の本来の意味での寄付金である。

(10) CD 販売は中央大学大会欠席会員への CD 販売を行ったので、その代金を記載した。

### D その他

(11) 会費滞納の会員にはすみやかに納入していただけるようにしたい。

5. 服部茂幸監査役より 2012 年度決算について問題は見当たらなかった旨報告。

6. 有賀裕二 EIER 編集委員長・副会長より、Econophysics 特集号 Part I として EIER の Vol.10-1 が 8 月 30 日「付け」で J-Stage にアップロードされ、9 月 2 日に Web 公開の運びであること、EIER のインパクト指数が 0.692 に急上したと、Helbing 教授より公開アクセス権の購入申し入れがあったこと、また編集委員会とは直接関係はないが Springer からのモノグラフシリーズ刊行計画について、報告され承認された。

7. 八木紀一郎理事より、学術会議が現在各分野についてその策定を進めている大学学士教育の参照基準の特に「経済学分野」の作成作業についての情報が提供され、大学教育と経済学研究の新古典派基準での画一化を促進しかねないという憂慮が表明された。作成作業を担当している分科会の現在の「素案」は、経済学を「希少な手段の効率的選択の科学」とし、ロビンズ流に定義し、合理的経済人を前提したマイクロ理論にマクロ・統計を加えた 3 科目を基礎とし、あとはすべてその履修を前提とした応用科目と位置づけるものである。また、現在の日本の経済学教育は、歴史・制度・思想が重視されすぎていると批判している。「参照基準」を、そのように特定視点からの排除的な序列付けをもったものにするのは「参照基準」のあり方としても問題があるので、本学会としても成り行きに注目し、場合に応じてしかるべき対応をとる必要があることが承認された。



## 【資料2】

2013年5月31日

進化経済学会 2013年度予算(案)  
(2013年4月1日 ~ 2014年3月31日)

(単位:円)

収入予算		支出予算	
	2013年度予算額		2013年度予算額
2012年度からの繰越	3,208,179	大会費	1,000,000
		(内訳)	
		オータムコンファレンス	200,000
		本大会	800,000
		英文誌編集刊行費	2,500,000
会費	4,195,000	通信費	100,000
(内訳)		交通費	0
正会員(2012年度実績)	3,400,000	事務用品費	100,000
終身正会員(10名)	500,000	謝金	20,000
院生会員(2012年度実績)	235,000	送金手数料	20,000
準会員(5名)	10,000	会議費	0
賛助会員(2012年度実績)	50,000	印刷費	0
		事務委託費	610,000
注6 大会収入	500,000	国際交流費	0
(内訳)		部会補助費	350,000
オータムコンファレンス	100,000	経済学会連合会費	35,000
本大会	400,000		
書籍売却代(2012年度実績)	200,000	予備費	100,000
WEB購読料	300,000	小計	4,835,000
		2014年度への繰越	3,568,179
総計	8,403,179	総計	8,403,179

注1

2013年度より英文誌編集刊行費には、CyberSourceへの支払が含まれる。

参考 英文編集刊行費に含まれる項目

直接出版費 EIR印刷代 J-STAGE掲載費 別刷り代

欧文校閲費 欧文校閲費

海外レフェリー EIR関係リーフレット等発送費(2012なし)

郵送費 EIR発送手数料, 送料, 別刷り発送費, 編集事務, 送料, コピー代

リーフレット作成 EIR関係リーフレット作成費(2012はなし)

CyberSource: 2013年度: 年間24万円+5万円(初期費用), 2014年度以降: 年間24万円

注2

事務用品費は、請求書等の費用で毎年100,000円を超えているので2013年度も超える見通し。

注3

交通費と会議費は理事会運営の費用で2013年度予算額は無し。

注4

印刷費はNLの印刷代で2013年度予算は無し。

注5

国際交流費は大会校(大会費から支出)に負担してもらっている。

注6

大会収入には参加費が含まれる(2012年度実績268,000円)。

【資料3】

進化経済学会  
平成25年度 収支計算書中間報告  
(平成25年4月1日～平成25年7月31日)

収入	増減			支出	増減		
	予算案	決算額			予算案	決算額	
会費	4,185,000	2,400,000	-1,785,000	大会費	1,000,000	0	-1,000,000
正会員増当年度		2,030,000		オーラム・コンファレンス	200,000	0	
正会員減当年度分		150,000		本大会	800,000	0	
終身正会員当年度		50,000		英文誌編集発行費	2,500,000	139,624	-2,360,376
院生会員増当年度		120,000		通信費	100,000	57,340	-42,660
院生会員減当年度分		0		交通費	0	0	0
専会員		0		事務用品費	100,000	0	-100,000
賛助会員該当年度		50,000		謝金	20,000	0	-20,000
大会収入	500,000	0	-500,000	送金手数料	20,000	3,305	-16,695
オーラム・コンファレンス	100,000	0	-100,000	会議費	0	0	0
本大会	400,000	0	-400,000	印刷費	0	0	0
利息	0	0	0	事務委託費	610,000	327,130	-282,870
寄付金	0	310,000	310,000	国際交流費	0	0	0
書籍本部代	200,000	21,000	-179,000	部会補助費	350,000	0	-350,000
WEB機材料	300,000	2,850	-297,150	経済学会連合会費	35,000	0	-35,000
GD販売	0	11,000	11,000				
				予備費	100,000	0	-100,000
当期収入合計	5,195,000	2,744,850	-2,450,150	当期支出合計	4,835,000	527,399	-4,307,601
前期繰越金	3,208,179	3,208,179	0	繰越金	3,568,179	5,425,630	1,857,451
総計	8,403,179	5,953,029	-2,450,150	総計	8,403,179	5,953,029	-2,450,150

貸借対照表  
(平成25年7月31日現在)

借方		貸方	
1 流動資産		2 流動負債	
現金		前受会費	10,000
預金			
普通預金	1,539,192		
郵便振替	2,896,438		
仮払金	1,000,000	3 正味財産	
		次期繰越金	
		前期繰越金	3,208,179
		当期差益	2,217,451
合計	5,435,630	合計	5,435,630

財産目録  
(平成25年7月31日現在)

科目	管理部門	金額	金額
流動資産			
現金			
預金	会計担当理事 学会事務局(国際文庫)	三菱東京UFJ銀行 郵便振替口座	1,539,192 2,896,438
仮払金	大会準備金		1,000,000
資産合計			5,435,630

(負債及び正味財産の部)

科目	適用	金額	金額
流動負債			10,000
前受会費		10,000	
負債合計			10,000
正味財産合計			
		前期繰越金	3,208,179
		当期収支差額	2,217,451
負債及び正味財産合計			5,435,630

## 第18回金沢大会のご案内

進化経済学会第18回金沢大会は、2014年3月15日・16日の両日、金沢大学角間キャンパスにて開催いたします。大会の詳細につきましては、すでに開設しております大会HPにて順次アナウンスさせていただきます（大会HP：<https://sites.google.com/site/evoecokanazawa/>）。

先だって募集しておりました企画セッションおよび口頭報告につきましては、すでに締め切り・承認が済み、それにもとづいて大会両日のタイムテーブル案も決まっております。大会HPにもUPいたしますが、大会へのご参加の意思決定に役立てばと思ひまして、タイムテーブルのみ、このニューズレターでアナウンスさせていただきますこといたしました（「第18回大会タイムテーブル」は次ページをご覧ください）。万事御繰り合わせの上、ぜひ大会にご参加くださればと思ひます。なお、大会への参加申込につきましては、大会HPからのWeb申込をご利用ください。

### ●大会申し込みおよび参加費、懇親会費、事前振込のお願い●

オータム・コンフェランスと同様、大会HPを通じてオンラインで参加申込みをおこない、2/28日までに、大会参加費（一般2000円、学生1000円）、懇親会費（一般4500円、学生3000円）の事前振込をお願いいたします。2/28日以降のお振込みについては、懇親会費がそれぞれ500円アップとなります。

### ●お弁当について●

3/15日については、昼食時に会場すぐ傍の北福利生協1階が開く予定です。お弁当は大会2日目3/16のみ手配させていただきます。お弁当はかまどやの幕の内弁当（550円）を予定しています。大学は山の中にあり、周辺には飲食店等皆無です。コンビニなども徒歩圏にはございません。なお、お弁当の発注にあたっては事前申し込みおよび事前支払を必須とさせていただきます。事前申し込み+事前支払が確認された方についてのみ、お弁当の手配をおこないます。事前支払の締切は2/28とさせていただきます。

### ●バスについて●

金沢大学角間キャンパスは、金沢駅から45分、市内中心部から30分を要する山の中にあります。また、土日のバスは1時間に1本程度と、非常に不便です。タクシーをご利用の場合、金沢駅、市内中心部、いずれからでも2500円程を要します。バスの場合は片道350円になります。大会実行委員会としては、北陸鉄道に臨時増便をお願いする予定ですが、費用がかかるためそれほど多くの増便は望めません。大会HPでバスの時間やルートについて詳しく説明しますので、参照してください。

お問い合わせ先：第18回金沢大会実行委員会  
evoecokanazawa@gmail.com

## 進化経済学会 若手セミナーご案内

本年度は大会校の都合により、前年度まで「サマースクール」と銘打っておりました若手セミナーを、大会当日におこないたいと思ひます。

日 時：3月15日（土）10時～12時

内 容（予定）：EIERの状況

英文ジャーナル投稿のコツ

投稿前の若手による相互評価、など

（現在、担当委員にて思案中でございます。）

近年は就職の際に英文業績が求められることが多数ございます。進化経済学会における若手会員の悩み（投稿先、etc.）、投稿のコツなどを考える場となれば幸いであると考えております。また、若手ではなくても、ご自身のご経験やお考えをご教授していただける方々の多数のご参加をお待ちしております。

連絡先：吉井哲（名古屋商科大学）yoshii@nucba.ac.jp

3月15日	201 教室	202 教室	203 教室	204 教室	205 教室
10:00 12:00	<b>若手セミナー</b>				
	<b>受付開始：12:00</b>				
	<b>経済学説・経済思想</b> 司会：荒川章義（立教大学）	<b>統計分析・実験経済学</b> 司会：小林重人（北陸先端科学技術大学院大学）	<b>観光</b> 司会：江頭進（小樽商科大学）		
13:00 13:40	「経済理論の発展にパースの形而上学は役に立つか？」 阿部晃大（東京大学・院）	「東大阪市の人口動態に関する巨視的・微視的視点からの実証研究～GISによる空間統計分析とCSAによる要因連鎖構造の解明」 深瀬澄（注1）（大阪経済法科大学）	「地域・観光ブランドとしての「聖地」創造のプロセスと住民参加のダイナミズムについての民族誌的研究」 八巻恵子（広島大学）		
13:40 14:20	「N. カルドアにおける税制改革と経済成長・分配」 木村雄一（埼玉大学）	「経済進化と価格裁定の観察：U-Mart 人工市場実験から」 谷口和久（近畿大学）	「薩摩硫黄島におけるジオパーク構想の現状と課題」 深見聡（長崎大学）		
14:20 15:00	「シュンペータとコンドラチェフ：技術革新と経済発展の循環と相関」 弘岡 正明（テクノ経済研究所）	“Resolving MAD: Theory and Experiment” 西條辰義（高知工科大学）	「ダークツーリズムと地域の進化」 井出明（追手門学院大学）		
	休憩・移動				
	<b>【企画セッション】雇用制度・金融制度を重視したマクロ経済分析</b> 司会：瀬尾崇（金沢大学）	<b>シミュレーション</b> 司会：小山友介（芝浦工業大学）	<b>制度の現状分析</b> 司会：福留和彦（奈良産業大学）	<b>均衡の経済学をめぐって</b> 司会：塩沢由典（中央大学）	休憩室
15:10 15:50	“The Consequences of Internationalization of Trade and Financial Transactions on Growth: Combining an Institutional Hierarch Hypothesis with a Keynes-Minsky Approach” 西洋（阪南大学）	「サポートベクターマシンを用いた複数の均衡点をもつ税率変化の予測手法」 今福啓（獨協大学）	「太平洋島嶼国の離島における農地利用制度の変容：ミクロネシア連邦共和国ビンゲラップ島のイモ畑利用を事例として」 西村知（鹿児島大学）	「進化経済学の落とし穴」 桑垣豊（京都産業大学・非）	
15:50 16:30	「正規労働と非正規労働の賃金決定制度の差異を考慮したカレツキアン・モデル」 藺田竜之介（佐賀大学）	「駆け込み需要における購買行動の要因とパターンに関する分析」 土屋良太（早稲田大学・院） 高橋真吾（早稲田大学）	“Understanding Fisheries Rules in Fiji: A Comparison of Three Case Studies” ジョキム・キトレレイ（注2）（鹿児島大学）	「生産と消費の古典派経済観の発展的分析」 有賀裕二（中央大学）	
16:30 17:10	「金融化が日本経済の資本蓄積に与える影響に関する実証分析」 嶋野智仁（京都大学・院）	「会計的意思決定トランザクションベース・マクロ経済モデルによるシミュレーション」 榊俊吾（東京工科大学）	「官民人事交流に関する考察」 戸田宏治（日本経済大学）	「価格と数量の同時決定体系への転換」 吉井哲（名古屋商科大学）	
17:10 17:50	“Profit Sharing and its Effect on Income Distribution and Output: A Kaleckian Approach” 佐々木啓明（京都大学）	「ダブルエントリー状態空間上でのトランザクションベースでの均衡と成長の制約充足型経済システム分析」 出口弘（東京工業大学）		「最適化、もう一つのグラフィックな解明」 土田和長（富士大学）	
	休憩・移動				
18:00 20:00	<b>懇親会</b>				

注1）共同研究者 中村悦広（大阪経済法科大学）、山路崇正（大阪経済法科大学） 注2）共同研究者 西村知（鹿児島大学）・鳥居享司（鹿児島大学）・河合溪（鹿児島大学）・小針統（鹿児島大学）

3月16日	201 教室	202 教室	203 教室	204 教室	205 教室
	<b>グローバル経済と資本主義</b> 司会：磯谷明徳（九州大学）	<b>【企画セッション】旧制度学派の経済学構想：現実を捉える方法の追求</b> 司会：柴田徳太郎（東京大学）	<b>金融・通貨</b> 司会：服部茂幸（福井県立大学）	<b>【企画セッション】社会秩序と行為選択を巡る史的検証 1</b> 司会：江口友朗（立命館大学）	
10:00 10:40	「アジア労働市場の変容とフレキシキュリティ」 厳成男（新潟大学）	「ヴェブレンの文明史における機械の論理と人間の本性」 石田教子（日本大学）	「デビットカードの利用と将来性について：電子マネーの一形態としての論考」 糸永順子（東京大学・院） 田中秀幸（東京大学）	「アクターの行為選択の自由に関する国家介入の条件：19世紀イギリスの電信国有化の事例から」 松波京子（名古屋大学・院）	
10:40 11:20	「中国・国有経済部門の地位の再評価-鉱工業部門に関する分析」 村上裕（首都大学東京・院）	「ジョン・R・コモンズと『アメリカ精神』-エリック・フェーゲリンの議論を手がかりに」 寺川隆一郎（帝京平成大学・非）	「上海銀行間取引金利の安定性に関するシミュレーション-エージェント・ベース・シミュレーションを用いた中央銀行の金融政策支援に向けて」 楊洋（北陸先端科学技術大学院大学・院） 橋本敬（北陸先端科学技術大学院大学）	「経済学にみる人間像の変遷と経済学方法論：19世紀後半イギリスを中心に」 田中啓太（名古屋大学・院）	
11:20 12:00	「グローバリゼーション：「市場の内別化」による資本主義市場経済の進化」 西部忠（北海道大学）	「ヴェブレンの制度進化論-歴史と現実を捉える理論的枠組み」 新井田智幸（東京大学・院）	「証券化と金融規制-「影の銀行システム」の規制に関する諸論点の検討」 石倉雅男（一橋大学）	「K.J. アローにみる社会秩序のかたち-『社会的選択と個人的評価』（1951）より」 西本和見（中部大学）	
12:10 12:50	<b>ポスターセッション ショートプレゼン</b>	休憩・移動			休憩室
13:00 14:00	<b>会員総会</b>				
	<b>【企画セッション】マクロ経済理論の進展</b> 司会：佐々木啓明（京都大学）	<b>【企画セッション】J.R.コモンズ『制度経済学』と1927年草稿の比較分析</b> 司会：八木紀一郎（摂南大学）	<b>【企画セッション】企業経営・経営規範・労使関係の変容：RS型からAL型へ</b> 司会：柴田徳太郎（東京大学）	<b>【企画セッション】社会秩序と行為選択を巡る史的検証 2</b> 司会：江口友朗（立命館大学）	
14:00 14:40	“Demand and Distribution in a Two-country Kaleckian Model” 藤田真哉（名古屋大学）	「J.R.コモンズの累積的因果連関論」 宇仁宏幸（京都大学）	「ドイツの経営者の行動規範の変化：人的資源管理の歴史の変容を軸に」 石塚史樹（西南学院大学）	「政策決定プロセスにおける市民社会の役割：エコロジー的近代化の観点から」 加藤里紗（名古屋大学・院）	
14:40 15:20	“On A Shock Propagation Process Generated by Supply Chain Networks” 浅沼大樹（旭川大学）	「適正な価値、主権と慣習、法と倫理、政治的なものの構成、制度を介した構造的因果連関」 中原隆幸（阪南大学）	「MBA教育とアメリカ企業の経営規範」 中川淳平（駒澤大学）	「韓国福祉制度の現状分析」 申成秀（名古屋大学・院）	
15:20 16:00	「古典派理論と個人間所得分配について：A. Sen と L. Pasinetti の議論」 松山淳（一橋大学・院）	「J.R. コモンズ、制度経済学、1927年草稿、主権、人為的淘汰」 北川巨太（京都大学・院）	「日本における雇用制度の変化：雇用の数量調整と賃金制度を中心に1997-2012年」 古谷眞介（大阪産業大学）	「制度論的ミクロ・マクロ・ループ論の方法論的・理論的な課題：共時的に異質で多面的なアクターを分析するために」 江口友朗（立命館大学）	
16:00 16:40	「知識の蓄積過程とイノベーション過程」 瀬尾崇（金沢大学）	「適正価値、所得分配、交渉取引、割当取引、賃金交渉力」 加藤浩司（京都大学・院）			

## 会員の異動

### 1. 新規入会者

氏名	フリガナ		所属先	推薦会員（敬称略）
番匠谷光晴	Banshouya	Mitsuharu	四天王寺大学大学院博士課程	中原隆幸, 和田謙一郎
阿部晃大	Abe	Akihiro	東京大学大学院経済学研究科博士課程	柴田徳太郎, 新井田智幸
伊藤忠彦	Ito	Fumihiko	東京学芸大学大学院教育学研究科社会科学教育専攻経済学コース	高数学, 有賀裕二
板垣武尊	Itagaki	Takeru	立教大学大学院観光学研究科観光学専攻博士後期課程	井出明, 出口竜哉
竹岡良輔	Takeoka	Ryosuke	(株)JTB 総合研究所	井出明, 出口竜哉

### 2. 名簿訂正

氏名	変更箇所	住所／種別	TEL/FAX/e-mail	所属先
金佑眞	自宅住所			
藺田竜之介	自宅住所 所属先			佐賀大学経済学部
井出明	自宅住所			
森岡真史	自宅住所			
田原慎二	種別			
村上雅俊	所属先・種別			関西大学
高畑美代子	種別			
柊紫乃	所属・送付先			山形大学大学院理工学研究科
巖成男	所属先			新潟大学経済経営学部
北川巨太	所属先・種別			京都大学大学院
上村聖	所属先・種別			首都大学東京大学院
若森みどり	所属先			大阪市立大学経済学部
中谷武雄	種別			
呂守軍	所属先			上海交通大学国際与公共事務学院
Mauricio Mora Morgado	自宅住所			
水野貴之	所属先			国立情報学研究所
佐藤尚	自宅住所			

#### 編集後記

No. 35 の配信が予定よりも遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

今号では、2014年3月に開催予定の第18回金沢大会のタイムテーブルおよび若手セミナーのご案内を掲載しております。大会の内容とみなさまのご予定をご確認のうえ、多くの方々にご参加くださいますようお願い申し上げます。

また、これまでちょうど3年間、ニューズレターの編集を担当させていただいておりましたが、来年度より吉田昌幸（上越教育大学）会員に引き継ぐことが内々に決まっております。特に各部会の担当者の方々、理事会および学会事務局の方々におかれましては、これまでご協力くださりましてお礼申し上げます。担当者が代わりましても、引き続きご協力いただけますようお願い申し上げます。

開催校のある金沢は、曇・雨・雪の日が続く北陸地方らしい悪天候が続いております。寒く多忙な時期ではありますが、みなさま、よいお年をお迎えください。

ニューズレター編集担当：瀬尾 崇（金沢大学）